

平成30年10月17日

西部農林振興センター 益田事務所 農業普及部

標 題	益田市飼料用米研究会の現地検討会（第3回）を開催！！ ～乾田直播栽培・多収性品種への関心、更に高まる～
------------	---

（ダイジェスト）

9月28日（金）、益田市の集落営農組織9法人で構成される「益田市飼料用米研究会」（以下、研究会）は、飼料用米生産に係る省力低コスト化、多収化に向けた実証ほを活用し、第3回目の現地検討会を開催しました。当日は、生産者と関係機関、計25名が集まり、ほ場巡回や意見交換などを通じ乾田直播栽培、多収性品種について相互に理解を深めました。

本年度の「普及情報 No. 8」で紹介したように、研究会の活動として省力低コスト化技術と多収性品種比較の実証ほを6か所設置しています。省力低コスト化では、1法人が水稻乾田直播栽培の現地実証、多収化では、5法人が多収性品種「モミロマン」、「みなちから」などの現地実証を行っています。

これまで研究会は、乾田直播栽培の播種作業、苗立状況、今後の管理などについて現地現地検討会を2回開催しており、今回は、乾田直播栽培の成熟期の確認と併せて多収性品種の成熟期の確認を行いました。

当日は、普及部から実証ほの生育概況などを説明し、続いて、各法人の代表からこれまでの栽培管理や実証試験に取り組んで課題に感じたことなどのお話をいただきました。その後、生産者と関係機関で各実証ほの巡回を行い、生産者自身が各品種の稈長、穂長を調査データと照らし合わせて比較し合うなど積極的な参加と活発な意見交換がなされ、一層理解が深まったと考えています。

普及部としては、今後、各実証ほの経済性評価を行うとともに、先進地視察を行った事例（岡山県瀬戸内市）を参考にしながら乾田直播栽培のマニュアル作成に取り組んでいくことにしています。



乾田直播栽培の現地検討会



多収性品種の現地検討会



左から「夢あおば」、「モミロマン」、「みなちから」